

## 平成 27 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「特別賞」

日本認知症ワーキンググループ

【設立年月日】2014 年 10 月 11 日

### 【授賞理由】

その人らしい生き方を重要視する認知症ケアが提唱されるなか、認知症の人自身がその生きる様を社会に対して発信していく活動は多くの人々に勇気と希望を与えるとともに認知症ケアの発展に大きな支えとなっています。貴会の活動が模範となり今後各地で認知症の人への理解が深まることを期待します。

### 【団体概要】

認知症になってから、希望と尊厳をもって暮らし続けることができ、よりよく生きていける社会を創りだしていくことを目的に、認知症の人自身が活動していく日本初の独立した自主組織として 2014 年 10 月に発足。認知症の本人 2 名が共同代表をつとめ、趣旨に賛同する認知症の本人が全国からメンバーとして参画（現在 15 名）。メンバーの合議によって運営を進め、目的の実現に向けてメンバーと実際に活動を共にするパートナー（医師、看護師、介護職、行政職、メディア関係者、研究職（15 名）が運営をサポートしている。発足して日が浅いが、認知症の本人の声の集約、厚生労働省への政策提案、メディアや講演会等を通じた発信等、精力的に活動を行っている。海外で先駆的な活動を進めている各国の「認知症ワーキンググループ」等の認知症の本人/組織、国内の認知症関連の諸団体とも連携しながら活動を展開。

### 【事業活動】

- ・全国の認知症の本人の意見を集める、話し合う、建設的な提案をまとめる
- ・厚生労働大臣等に提案を提出する
- ・国や地方自治体の施策等の企画・立案過程の場に参画する、経過を確認する
- ・認知症の本人に役立つ情報提供を行う（認知症の本人に役立つパンフレット、ヘルプカードをつくる等）
- ・医療、介護、福祉、法律、労働、教育関係者等への働きかけをする
- ・企業への働きかけをする
- ・海外の認知症の当事者となつたり、情報や意見交換を行い、ともに活動する
- ・以上の活動について、広く国内に広報をする

### 【業績および功績】

認知症になってから希望と尊厳をもって暮らし続けることができ、よりよく生きていける社会を創りだしていくこと。（認知症の人本人の声を集め、話しあい、目的の実現に向けた活動を展

開します。)

(設立趣意書より)

以上を活動の目的とし次の活動を行っている。

- ①本人同士が主体的な活動を楽しく続ける：本人が自らの意思で参加し、本人同士がつながって本人と社会に必要な活動について意見を交わし、本人が主体となってそれぞれが無理なく楽しく活動を続ける。
- ②本人の視点から暮らしと社会の課題を提起：認知症とともに暮らしてきている本人が、実際に体験した者でないと気づけない本人と家族の暮らし、地域社会や医療、介護等の課題を具体的に世の中に示していく。
- ③暮らしや社会をよりよく変えていく前向きなアクション：課題の提起で終わらずに、認知症になってからの日々の暮らしや社会を実際により良く変えていくために認知症の本人が自分たちの力を活かして実際に動く。
- ④国内どこでもよりよく暮らしていけるよう発信と推進：どこで暮らしていても認知症になってから希望と尊厳をもってよりよく生きられることを発信・推進する。
- ⑤多領域のパートナーが本人と共に活動：目的の実現に向けて分野や立場を越えて共に活動する。そして活動をとおして、次の効果・影響があった。
  - ・国内各地で主体的に発言・活動する本人が結集・ネットワークが育つ：各地で主体的な動きを始めていたが互いのつながりがなかった人同士、またそうした活動をしたいと願っていたが機会がなかった人たちが本団体の発足によって結集し、本人同士の全国的ネットワークと各地のネットワークが育ってきている。
  - ・厚生労働省に意見提案をし、新オレンジプランに反映：メンバーが意見を集約し、2014年10月に厚生労働大臣に提出。さらに具体化した内容を12月に共同代表が厚労省に提案。本人の視点重視、初期の空白期間の実態調査の実施、本人が施策立案や評価に参画、新キャンペーンの展開等の意見が新オレンジプランに反映され新たな施策策定に寄与できた。
  - ・本人が主体的に発言・行動する姿と可能性を社会に広げる：「認知症サミット日本後継イベント」でのスピーチや、講演会、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等を通じて、本人と共に創る域社会のあり方・可能性を社会に広げた。今後、次の活動を予定している。
  - ・初期の空白期間に関する実態調査等への参画、意見集約・提案：本人と家族が希望と尊厳をもって暮らしていくために極めて重要な時期である初期段階の実態が十分に把握されておらず、効果的な施策や医療・介護等のサービスのあり方が不足している「空白の期間」が大きな問題になっている。その解消にむけた実態調査や新たな施策・サービスを作り出す活動に参画し、本人の意見集約や提案を積極的に行っていく。
  - ・認知症の本人が暮らしやすくなるための知識・技術、道具等の意見集約・提案：本人が実際に生活していく上での不安や不自由を解消していくために役立つ知識・技術、道具等に関するメンバーの体験や工夫、アイデアを集約し、具体的な提案を幅広く行っていく。
  - ・本人が語り動くキャンペーン活動：本人の声を本人自身が地域社会に伝え、理解を広げるキャンペーン活動